Facebook グループを活用した高校生小論文作成コミュニティの実践

Using the Facebook Group as a Learning Management System for High School Students' Essay Writing Community

高橋 薫*　藤本 徹*　野口 雅乃*
Kaoru TAKAHASHI*　Toru FUJIMOTO*　Masano NOGUCHI*
鈴木 久**　大辻 雄介**　山内 祐平*
Hisashi SUZUKI **　Yusuke OTSUJI**　Yuhei YAMAUCHI*

東京大学大学院情報学環*
Interfaculty Initiative Information Studies, The University of Tokyo*
株式会社ベネッセコーポレーション**
Benesse Corporation**

＜あらまし＞　本研究では，Facebook の非公開グループを学習管理システム(LMS)として活用した学習コミュニティを形成し，小論文作成を支援する実践を行った．対象者は小論文の通信教育を受講している高校 2 年生 27 名である．小論文教材のワークシートに基づいた学習の成果物を Facebook グループにアップロードし，お互いの成果物にピアレスポンスを行いながら課題の小論文を作成した．活動後に Facebook グループの LMS としての機能を 教育的アフォーダンス，社会的アフォーダンス，技術的アフォーダンスの観点から評価した．その結果，Facebook グループを活用して参加者同士をつなぎ，学習プロセスを可視化する試みは，参加者に好意的に受け止められ，学習の動機付けとなっていることが確認された．

＜キーワード＞　インフォーマルラーニング　学習環境　ライティング　ピアレスポンス　LMS

１．はじめに

急速にグローバル化が進む知識基盤社会においては，テクノロジーを活用しながら，他者と協働的に学ぶことができる 21 世紀型スキルが求められている（ATCS21）．このような社会情勢を踏まえ，平成 21 年（2009 年）3 月に高等学校の学習指導要領が改訂され，国語をはじめとする各教科での言語活動の充実が提唱されるようになり，生徒が集めた情報を整理・分析し，論理的にまとめて表現するような言語活動の実践が求められるようになった（文部科学省 2012）．また，大学入試の方法も多様化しており，国公立大学の個別学力検査において，7 割を超える大学が小論文を課している（文部科学省 2011）．しかし，言語活動の四技能のうち「書く」ことは，母語においても認知的な負荷が高く，大学生になっても「書く」ことに苦手意識を持つ学生が多いことが報告されている（渡辺 2010）．書くことは基本的に個人の認知的な活動である一方で，書きあげた文章を学習者同士で読み合い，フィードバックを行うピアレスポンスが近年注目されている（白石ほか 2010 など）．ピアレスポンスは，文章を推敲する際に実施されることが多いものの，書き手にとって最も認知的，かつ，心理的な負荷が高いのは，むしろ文章を書き上げるまでのプロセスである．そこで本研究では，ソーシャル・ネットワーキング・サービスのひとつである Facebook を学習管理システム(LMS)として活用し，通信教育で小論文を学習している高校生を対象に，小論文のプランニングと文章化を支援する学習コミュニティを開設した．本発表では Facebook 上の学習コミュニティの実践について報告する．

２．実践の概要

対象　ベネッセの進研ゼミ小論文講座を受講している高校 2 年生 27 名である．

期間　2012 年 2 月 28 日～2012 年 3 月 14 日

教材　進研ゼミ 2012 年 3 月号の通信教育教材を用いた．小論文のテーマは「少子高齢化」で，提示されているグラフや資料を読み解き，少子化の原因と対策を 600 字で述べる課題であった．この

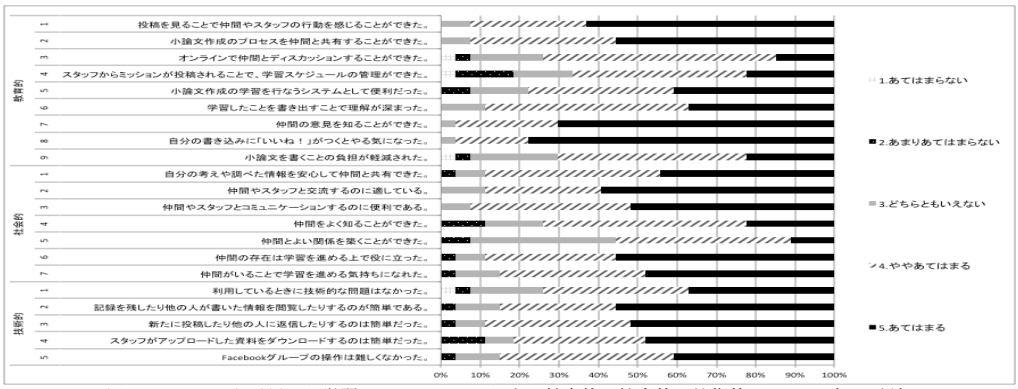

図 1 Facebook を活用した学習コミュニティに対する教育的・社会的・技術的アフォーダンス評価

課題では，広く社会に視野を広げて論拠に基づく主張を展開することが求められている．

手続き　Facebook の非公開グループを用いて，学習成果を報告する「活動グループ」（1 グループ高校生 5～6 名で，他グループの閲覧も可能）と，全体への連絡や雑談のための「全体交流スペース」を設置した．教材のワークシートに基づき，スタッフ（第一筆者）からの指令（Mission）として投稿を指示し（表 1），投稿した成果物に参加者同士でピアレスポンスを行った．グループ内で解決できなかった問題や質問等については「全体交流スペース」において情報を共有し，適宜スタッフがフィードバックを与えた．以上の手続きで学習のプロセスを可視化しながら，小論文を作成していった．

表 1　学習の流れ

ミッション	内容
1	課題を理解する
2	書くための知識を得る
3	得られた知識を整理する
4	アウトラインをチェックする
5	小論文を書く
6	小論文を提出する

評価　ICT を活用した学習環境の有用性については，教育的，社会的，技術的なアフォーダンスの観点からの評価が有効であることから（Wang et al. 2011），先行研究の評価指標を本実践の文脈にあわせて修正し，5 段階評価を行った．また，学習活動への印象について確認するための自由記述アンケートも併せて実施した．

3．結果

教育的，社会的，技術的なアフォーダンスの評価結果は図 1 の通りである．いずれの項目も，評価 4 以上が大半を占めており，参加者が本実践の学習コミュニティを好意的に受け止めていることが確認された．また，記述式アンケートからは「元々，文章を書く事に抵抗があったのですが友達が頑張っている投稿を見ると自分も頑張ろう! という励みになった（高 2 女子）」など，学習プロセスの可視化が学習の動機付けになっていることがわかった．

付記

本研究は，ベネッセコーポレーションとの共同研究として，平成 23 年度東京大学大学院情報学環ベネッセ先端教育技術学講座（BEAT）で実施された．

参考文献

ATC21S(Assesment & Teaching of 21st Century Skills) What Are 21st-Century Skills? http://atc21s.org/index.php/about/what-are-21st-century-skills/ （参照日：2012 年 7 月 10 日）

文部科学省（2012）新学習指導要領・生きる力 言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1322283.htm（参照日：2012 年 7 月 10 日）

文部科学省（2011）平成 24 年度国公立大学入学者選抜の概要 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/09/1310728.htm（参照日：2012 年 7 月 10 日）

白石藍子・鈴木宏昭（2009）第 3 章 相互レビューによる論証スキルの獲得「学びあいが生み出す書く力　大学におけるレポートライティング教育の試み」鈴木宏昭編著 丸善プラネット株式会社 pp.31-54.

Wang Q., Woo H. L., Quek C. L., Yang Y. and Liu M. (2012) Using the Facebook group as a learning management system: An exploratory study *British Journal of Educational Technology* 43(3) 428–438.

渡辺哲司（2010）『「書くのが苦手」をみきわめる—大学新入生の文章表現力向上をめざして』学術出版会